建通新聞

2016年（平成28年）12月27日〈火曜日〉日刊

中部の未来創造大賞優秀賞を受賞

加藤 徹・加藤建設社長

建設業界のスタンダードへ

インタビュー 中部

中部5県で取り組まれている地域づくり活動の中で、特に優れた取り組みを表彰する「中部の未来創造大賞」の表彰式が、16日に行われた。「一般の方に活動を評価してもらえたことを非常に誇らしく感じています」と、企業として唯一の入賞となった加藤建設（愛知県蟹江町）の加藤徹社長は話す。優秀賞を受賞した「エコミーティング活動」に懸ける思い、今後の展望などについて聞いた。

―まず、エコミーティング活動とはどういったものですか。

「道路や河川、公園などの公共工事を行う中で、自然との共生を実現するため、地域の環境を考慮した整備方法を提案する活動のことを指します」

「『環境パトロール』というネーミング案もありましたが、社員同士で話し合った結果、あまり肩肘を張らずに、気軽に活動していこうという方向性が見え、硬い名称は避け『エコミーティング』になりました」

―エコミーティングの歴史と現在の活動について伺います。

「『建設業界は環境を破壊する業界ではない』ということを、一般の方に知ってもらおうと2009年から始めました。当時は知識も経験もなく、とても100点満点の活動とは言えませんでしたが、たとえ素人目線だとしても、一つ一つ行動していくことが大切だとの思いで、手探りで進めてきました」

「こういった活動を起点として、『全ての建設業者が、どの現場でも環境を意識した施工を実践しているんだなと社会に認知される』ことが、エコミーティング活動の最終的な理想形です」

「この活動を通して、『環境を破壊するのではなく、環境を創造するのが建設業界』というイメージを多くの市民に持っていただきたい。一人でも多くの人に働きたいと思ってもらえるような魅力ある建設業を目指していきます」

「住民との連携という点ではまだ不十分だと認識していますが、将来的にはたくさんの声を現場に反映していきたいと考えています。今回受賞したことで、公共工事の発注者への訴求とともに、われわれと地域住民との距離をわずかながらでも縮められたのではないかと思っています」

―エコミーティングに懸ける思いについて聞かせてください。

―今後の展望についてはどのように考えていますか。

「在来種の保護や外来種の駆除活動は社内でも定着してきました。活動のさらなる進展のため、会社全体で『ビオトープ施工管理士』資格の取得に注力しています。現在112人が2級以上を取得済みですが、本年度の合格予定者を加えると社員の約半数が資格取得者ということになります」

「業界全体として、少しずつですが、環境に配慮した活動の流れが生まれてきたように感じています。今後、エコミーティングのような、環境に配慮した活動が業界全体に波及し、建設業界のスタンダードになるように社員全員で努力していく考えです」

（白幡輝）